

# 常盤学区

## まちづくりプラン



令和2年3月

(令和6年3月改訂)

常盤学区活性化プロジェクト検討委員会

草津市



・・・ 目 次 ・・・

1. まちづくりプランの位置づけ .....	1
2. 常盤学区の状況 .....	2
3. 常盤学区のまちづくりの経緯 .....	10
4. 常盤学区の課題 .....	11
5. 基本方針と施策メニュー（令和6年3月改訂） .....	13
6. 推進計画の進行管理 .....	15
7. 常盤学区まちづくりプラン策定の体制・経過 .....	16

## 1. まちづくりプランの位置づけ

### (1) まちづくりプランとは

- ・草津市版地域再生計画で掲げた課題の解決や将来ビジョンの具現化に向けて、対象学区ごとに地元でのワークショップ等で検討した事項を反映させ、具体的に取り組む施策などを取りまとめた実行計画にあたります。
- ・実効性の高い計画とするために、短期（4～5年を目安）計画とし、施策の進捗管理を行いながら必要に応じて、見直しなども行いながら、確実に施策の推進を図っていくものです。

### (2) まちづくりプランの位置づけ

- ・まちづくりプランの位置づけについては、図-1 に示すように上位計画として、「総合計画」および「大津湖南都市計画区域マスタープラン」、「都市計画マスタープラン」があり、関連計画として「健幸都市基本計画」があります。
- ・これらの計画を踏まえながら、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりの実現に向けた「地域再生計画」「立地適正化計画」「地域公共交通網形成計画」の3つの計画が互いに連携して取組みを推進しています。
- ・まちづくりプランは、この中の草津市版地域再生計画の方針に基づき、その他の関連計画と連携しながら、具体的な実行計画を示すものです。

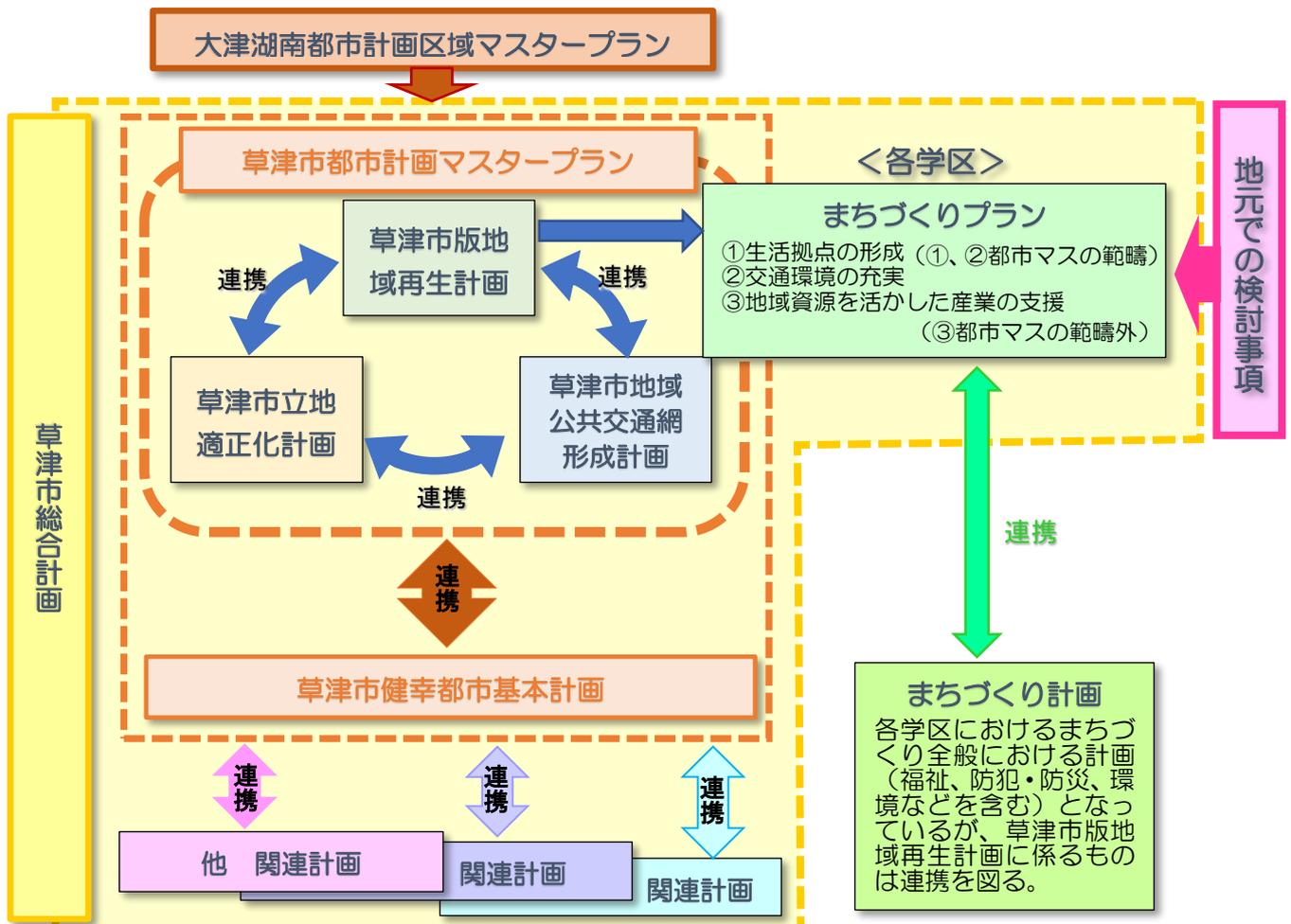


図-1. まちづくりプランの位置づけ

## 2. 常盤学区の状況

### (1) エリア・人口・高齢化率の状況

#### ① エリア

・表-1 に示すように、常盤学区は面積 814ha（市全体面積の約 16.9%）で、全域が市街化調整区域となっています。図-2 は常盤学区の位置を示しています。

表-1. 常盤学区の面積割合（市街化区域と市街化調整区域）

	市街化区域		市街化調整区域		合計面積 (ha)
	面積 (ha)	割合	面積 (ha)	割合	
市全体	1,911	39.6%	2,911	60.4%	4,822
常盤学区	-	0.0%	814	100.0%	814

※面積は琵琶湖の面積は除いたものとしております。

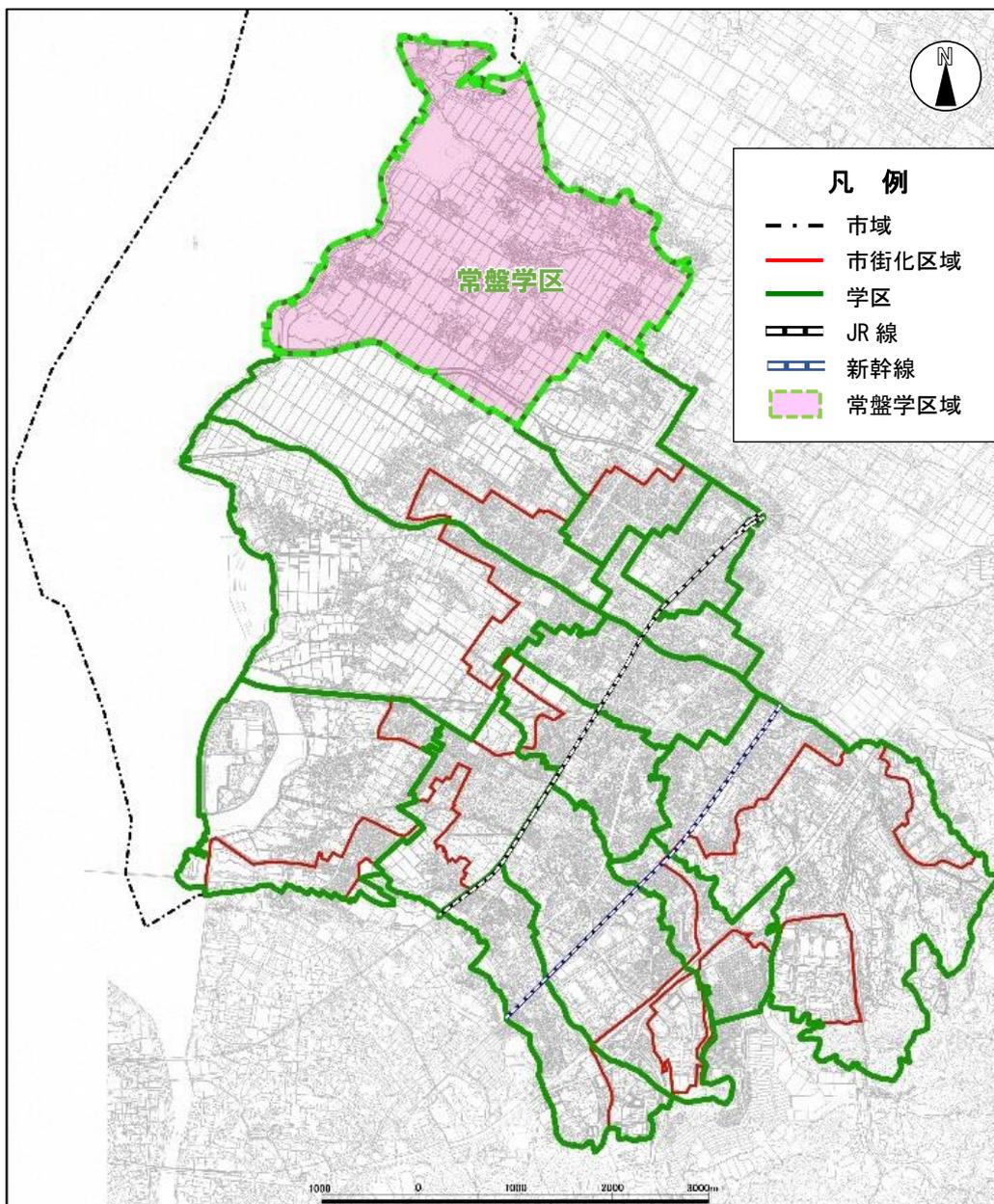


図-2. 常盤学区の位置図

## ②人口

- ・表-2 に示すように、常盤学区では既に人口減少が進んでおり、平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で 200 人以上減少しています。その後も減少が進むと予測されており、平成 27 年の人口は約 4,800 人で、令和 22 年には約 3,300 人となり 3 割以上減少することが見込まれています。
- ・平成 27 年から令和 22 年の人口減少率を比較すると、市街化調整区域全体では 8.2% の減少率である一方、常盤学区では 31.6% の減少率であることから、市街化調整区域全体と比較しても、人口減少がより一層進むと予測されます。

表-2. 人口の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

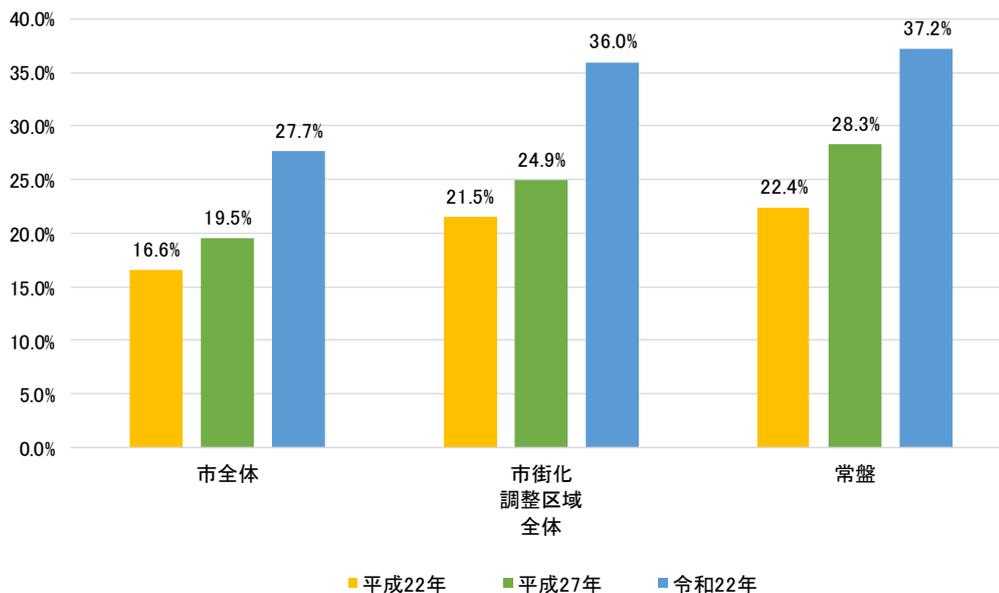
（数字の表記は千人単位としているため、実際の数値とは誤差が生じる）

	平成 22 年	平成 27 年		令和 22 年	
	人口 (千人) (A)	人口 (千人) (B)	増減率 (B/A)	人口 (千人) (C)	増減率 (C/B)
市全体	130.9	137.2	4.8%	145.1	5.7%
市街化調整区域全体	25.0	26.5	6.0%	24.3	▲8.2%
常盤学区	5.0	4.8	▲4.4%	3.3	▲31.6%

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

## ③高齢化率

- ・グラフ-1 に示すように、常盤学区の高齢化率は平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で約 6.0 ポイント上昇し、平成 27 年は 30% 弱になりました。その後も高齢化が進むことが予測されており、令和 22 年には 40% 弱になることが見込まれています。
- ・市街化調整区域全体と比較すると平成 27 年の状況で 3.4 ポイント高齢化率が高くなっています。



グラフ-1. 高齢化率の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

## (2) 生活利便施設の状況（草津市版地域再生計画の再掲）

- 生活利便施設は都市機能施設のうち、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において生活サービス施設としている、医療施設・高齢者福祉施設・商業施設の3施設を対象としました。

対象施設	定義
医療施設	病院・診療所で内科または外科を有する施設
高齢者福祉施設	通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設
商業施設	1,000㎡以上の大型店舗

- 徒歩圏人口カバー率は、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において、徒歩圏を一般的な徒歩圏である800m（バス停は誘致距離を考慮し300m）としており、対象施設の位置を中心とした徒歩圏内に存在する人口の総人口に占める割合としています。
- なお、徒歩圏人口カバー率は、町内会別ではなく町丁ごとの整理としており、人口については平成22年国勢調査データを使用しています。

### ①医療施設

- 図-3に示すように、常盤学区における医療施設は、医療法人社団あなむら診療所の1箇所のみとなっており、隣接する学区にある徒歩圏内の医療施設も1箇所のみで、徒歩圏人口カバー率は34.1%で、市内で最も低い状況となっています。特に、下物町、下寺町、芦浦町、長束町は徒歩圏内に医療施設が無い状況となっています。

施設名称	住所	診療科目
医療法人社団あなむら診療所	草津市穴村町311	内科、消化器科、小児科

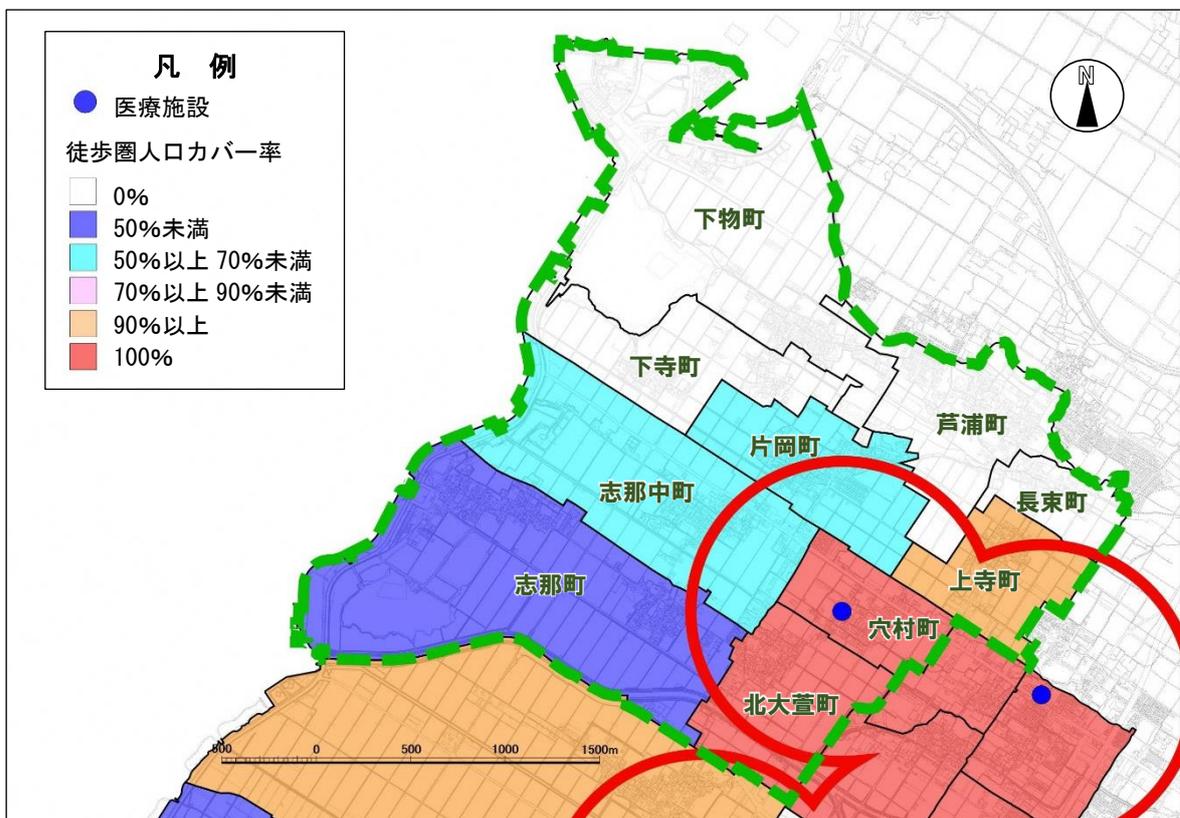


図-3. 徒歩圏人口カバー率 医療施設（データ整備年次 平成26年）

## ②高齢者福祉施設

- ・図-4 に示すように、常盤学区における高齢者福祉施設は、あかりケアサービス訪問看護事業所、社会福祉法人寿会草津市北部デイサービスセンター常輝の里、アマドコロヘルパーステーションの3箇所があり、隣接する学区にある徒歩圏内の高齢者福祉施設も2箇所あることから、徒歩圏人口カバー率は71.2%で、市内の平均を下回る状況となっています。その中でも、下寺町、志那町、長束町は徒歩圏人口カバー率が50%未満となっており、常盤学区の中でも低い状況となっています。

施設名称		住所
通所系	社会福祉法人寿会草津市北部デイサービスセンター常輝の里	草津市志那中町 25 番地
訪問系	あかりケアサービス訪問看護事業所	草津市下物町 64-8
	アマドコロヘルパーステーション	草津市片岡町上ミノ田 232 番 3

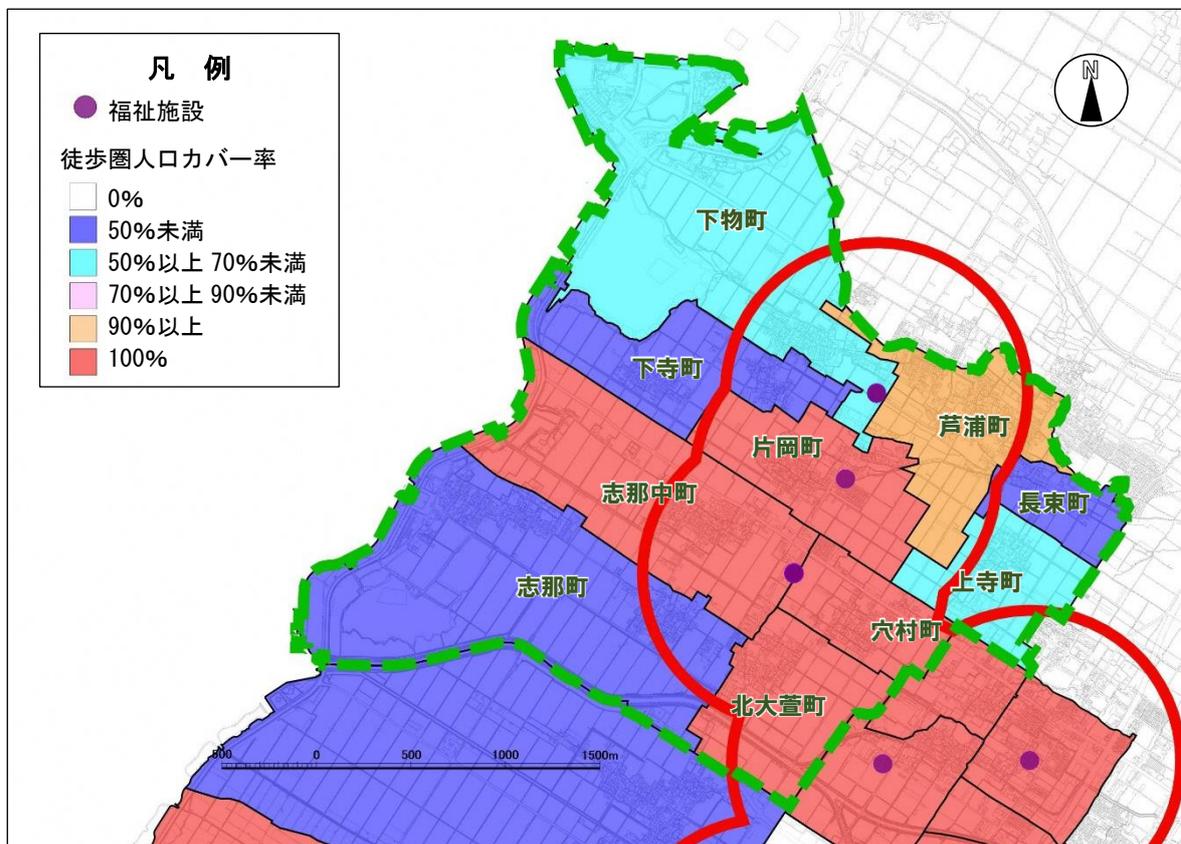


図-4. 徒歩圏人口カバー率 高齢者福祉施設  
(データ整備年次 公共介護施設 平成 27 年 民間介護施設 平成 28 年)

### ③商業施設

- ・図-5 に示すように、常盤学区における 1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設は 1 箇所もなく、徒歩圏人口カバー率は 0.0% で、徒歩圏内に 1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設が存在しない状況となっています。
- ・1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設は存在しませんが、コンビニエンスストアが 1 店舗あり、また道の駅草津では地元の野菜などを購入することができます。



図-5. 徒歩圏人口カバー率 商業施設（データ整備年次 平成 29 年）

### (3) 公共交通の状況

- ・図-6 に示すように、常盤学区における基幹的公共交通<sup>※</sup>の徒歩圏人口カバー率は 29.5% で、市内の平均を下回る状況となっています。バス路線が浜街道を通過していることから、浜街道から遠い地域の下寺町、長束町、上寺町の徒歩圏カバー率は 0.0% となっています。

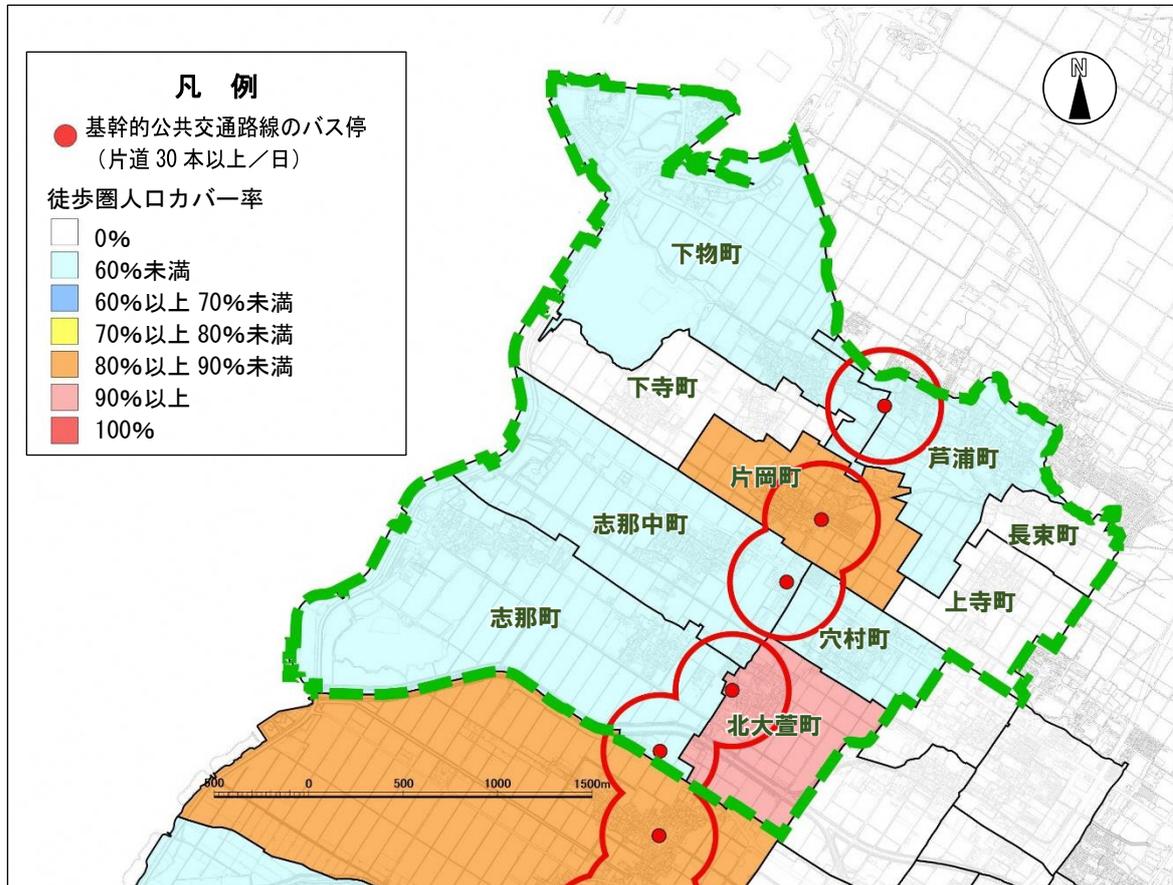


図-6. 徒歩圏人口カバー率 基幹的公共交通 (データ整備年次 平成 22 年)

※ 基幹的公共交通は 1 日に片道 30 本以上の運行頻度のバスとしています。

## (4) 地域資源の状況

### 《観光》

- 琵琶湖に面する常盤学区には、観光面では烏丸半島にある琵琶湖博物館のリニューアルオープンにより、賑わいを見せる一方で、水生植物公園みずの森ではハスの群生地の消滅により、来園者が年々減少しています。また、多目的広場を活用したイナズマロックフェス等のイベントが開催され、賑わいを創出しています。さらに、平成31年には、約9haの烏丸半島中央部の未利用地を草津市土地開発公社が買収し、烏丸半島・常盤学区の活性化の起爆剤として利活用を検討しています。



烏丸半島から見た琵琶湖



多目的広場でのイナズマロックフェス

©イナズマロックフェス2018実行委員会

- 常盤学区には、三大神社や芦浦観音寺などの神社・仏閣をはじめとする歴史資産が多く保存されており、平成30年5月24日には、「芦浦観音寺」と「草津のサンヤレ踊り」が日本遺産「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」に追加認定されました。このことから、多くの方々に訪れていただけるような、様々な観光資源が存在しています（図-7 及び表-3）。



三大神社の藤



芦浦観音寺表門



志那のサンヤレ踊り

### 《農水産業》

- 常盤学区には、豊かな田園風景が広がり、これを活かした体験農業や道の駅での野菜直売等、多くの地域資源が存在しています。



道の駅草津の直売所



道の駅に隣接する体験農業

・常盤学区には図-7、表-3 が示すような観光・農水産業の地域資源があります。

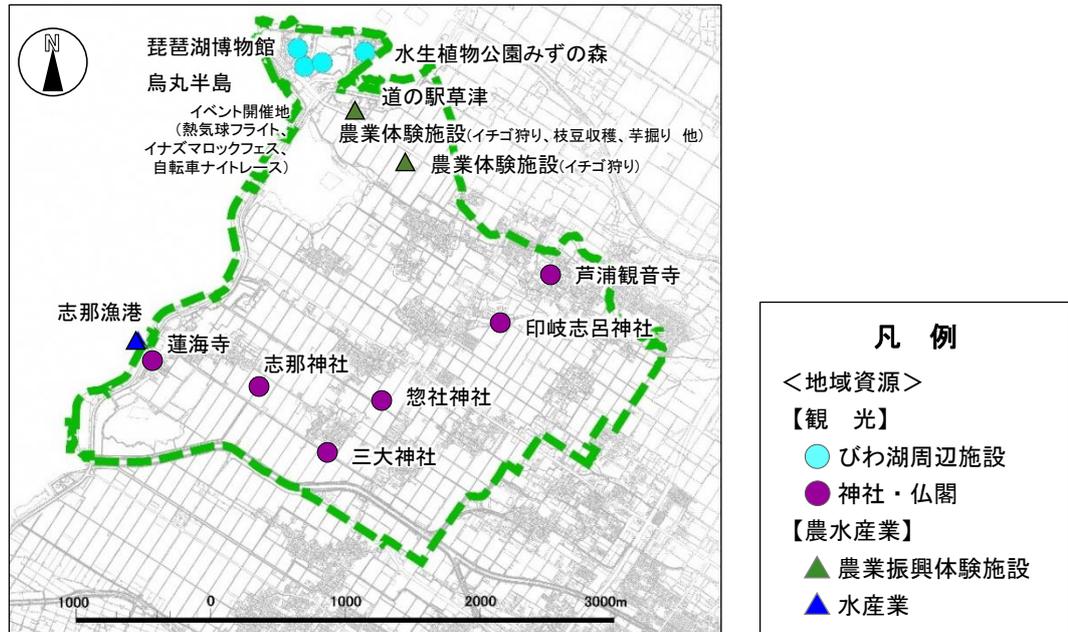


図-7. 常盤学区の地域資源分布図（主なもの）

表-3. 常盤学区の地域資源

		地域資源		所在地
区分	名称	概要		
観光	琵琶湖周辺施設	琵琶湖博物館	淡水の生き物の展示としては日本最大規模を誇る。バイカルアザラシは関西ではここでしか見られない。	下物町 1091
		烏丸半島 (イベント開催地)	自然環境を活かしたイベント【熱気球フライト、イナズマロックフェス、自転車ナイトレース】の開催地となっており、多くの人が訪れる。	下物町 1091
		水生植物公園 みずの森	全国でも数少ない水生植物公園で、中でもスイレンは日本最多のコレクションを誇る。	下物町 1091
		湖岸緑地	琵琶湖周辺の自然保全やレクリエーション利用増進を図るために整備された都市公園。	志那町
	神社・仏閣等	芦浦観音寺	聖徳太子開基、秦河勝創建と伝えられる。	芦浦町
		蓮海寺	俳諧の祖・山崎宗鑑ゆかりの古寺。	志那町
		花摘寺跡	寺名は太子信仰に由来する。	下物町
		下寺観音寺	芦浦観音寺、花摘寺とともに聖徳太子開基、白鳳期に創建され栄えたとされる。	下寺町
		宝光寺	木造薬師如来立像(平安時代)が国の重要文化財に指定。	北大萱町
		惣社神社	“志那三郷の藤”の一つ。	志那中町
		印岐志呂神社	天智天皇の勅願により大和国三輪大社から分祀されたと伝えられる。	片岡町
		三大神社	境内にある“砂摺りの藤”と呼ばれる藤棚は圧巻。	志那町
		志那神社	“志那三郷の藤”の一つ。	志那町
		安羅神社	祭神は天日槍（アメノヒボコ）。ヒボコの従者が医術・陶器・土木・鉄工業をもたらしたとされる。	穴村町
吉田家住宅	平成4年3月31日に県指定有形文化財に指定。	志那町		
橋堂	奈良興福寺の定恵和尚作、三面六臂の観音像を祀る。	志那町		
農水産業	農業振興 体験施設	道の駅草津 (農業体験施設)	季節の野菜や特産品を販売しており、農業体験施設では、イチゴ狩り、枝豆収穫、芋掘り等の体験ができる。	下物町 1436
		志那漁港	草津市にある漁港の一つ。	志那 1436-2
	水産業	平湖 (淡水真珠養殖の地)	淡水真珠養殖の技法は平湖でイケチョウ貝を母貝として、1928（昭和3）年に初めて成功した。	志那町
柳平湖		淡水真珠養殖がされている。	志那町	

### 3. 常盤学区のまちづくりの経緯

#### ①まちづくり計画【人と地域が輝く常盤協議会】

- 常盤学区では、平成24年1月28日に「人と地域が輝く常盤協議会」が発足しました。協議会では、地域住民が主体となり、地域の豊かな自然や歴史、貴重な文化財を大切にしながら、愛着と誇りの持てるまちづくりを推進することを目的として、もっと住みよい将来像を創造し、実現するためのまちづくり計画を平成25年3月に概ね5年間の計画として策定し、現在改訂を行っております。まちづくり計画では、以下のような基本理念と基本目標を定めています。

<b>基本理念</b>	<p>水と緑の豊かな自然や歴史、貴重な文化財、老いも若きも「わ」（和・話・輪）のつながりを大切にしながら、愛着と誇りを持つことができる文化豊かな「ふるさと常盤」を創ろう。</p> <p>～ みんながいきいきと安心して暮らせる常盤をめざして ～</p>
<b>基本目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安心して暮らせる ふるさと常盤</li> <li>2. 豊かな自然とみどりを大切に育む ふるさと常盤</li> <li>3. 先人の築いた歴史と文化を大切にする ふるさと常盤</li> <li>4. 人を大切に育む ふるさと常盤</li> <li>5. 子どもが元気に、高齢者が生き活きと暮らせる ふるさと常盤</li> <li>6. 地域の活力を生かした ふるさと常盤</li> <li>7. 人と地域のふれあいを大切にする ふるさと常盤</li> </ol>

#### ②常盤学区の活性化プロジェクト【常盤学区活性化プロジェクト検討委員会】

- 市主体で草津市版地域再生計画策定に向けた調査等の取組みを進める一方で、常盤学区では地域住民が主体となって具体的な課題およびその解決策を提示することで、市全体の地域活性の取組みのひとつとして推進が図れるよう、常盤学区のまちづくり計画を踏まえた地域再生活性化プロジェクトの提案を行いました。提案にあたっては、人と地域が輝く常盤協議会に加え、草津北部まちづくり協議会や常盤学区自治連合会、関係団体とも連携して常盤学区活性化プロジェクト検討委員会を立ち上げ、平成29年6月から翌年1月まで検討を重ね、平成30年1月に33項目のプロジェクト提案を市へ提出しました。

#### ③常盤学区まちづくりプラン（本計画）

- 常盤学区まちづくりプランでは、プロジェクト提案をさらに具体化に向けて整理するためにラウンドテーブルを開催し、草津市版地域再生計画における常盤学区の将来ビジョンを切り口として検討した具体的な施策を提示します。